宮崎県日向市・大分県佐伯市方言の動詞テ形における形態音韻現象

Morphophonological Phenomena of the *Te*-Form Verb
in Hyuga City of Miyazaki Prefecture and Saiki City of Oita Prefecture

有元　光彦*
ARIMOTO Mitsuhiko

【要旨】本稿では，宮崎県日向市・大分県佐伯市の 4 方言を対象とし，動詞テ形に起こる形態音韻現象（テ形音韻現象）を記述する。この現象を生成音韻論の枠組みで捉えた結果，4 方言は従来報告された方言タイプ（真性テ形現象方言あるいは非テ形現象方言）に属することが判明した。また，これらの方言タイプの地理的分布から，近隣の方言タイプの伝播が仮定された。しかし，九州東部の分布は非常に複雑な様相を呈しているため，今後の詳細な調査・記述が待たれる。

【キーワード】日向市，佐伯市，動詞テ形，形態音韻現象

1. はじめに[1]

本稿の目的は，宮崎県日向市・大分県佐伯市方言の動詞テ形（「～して」の形）を対象とし，そこに起こる形態音韻現象（「テ形音韻現象」と呼ぶ）を記述することにある。さらに，近隣の方言と比較することによって，それらの方言分布を観察するだけでなく，地理的な関連性を検討していく。

テ形音韻現象は，有元(2007)によると，次のように定義されている。

(1) テ形音韻現象：動詞テ形において，共通語の「テ」「デ」に相当する部分が，動詞の種類によって，様々な音声で現れる形態音韻現象。

例えば，ある方言では，「書いてきた」は[kakkita]と言い，共通語の「テ」に相当する部分にいわゆる促音が現れる。しかし，＜取ってきた＞は[tottekita]と言い，[tokkita]とは言わない。この場合，「テ」に相当する部分には[te]しか現れないのである。この違いは，動詞の種類，すなわち

* 山口大学国際総合科学部　arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

[1] 本稿の一部は，独立行政法人日本学術振興会・科学研究費・基盤研究(C)「九州方言音韻現象における方言形成と方言崩壊の非対称性に関する研究」(No. 22K00588)の成果によるものである。インフォーマントの紹介及び調査の実施においては，日向市及び佐伯市の各教育委員会に大変お世話になった。記して感謝申し上げる。なお，本調査は国立大学法人山口大学・人一般研究審査の承認（管理番号：2022-099-01）を得て実施されたものである。

動詞の語幹末分節音(stem-final segment)の違いによるものと考えられる。有元(2007:99)では，この違いを記述するために，初期の生成音韻論(Generative Phonology)の枠組みを適用し，(2)の「e 消去ルール」を仮定している(cf. Chomsky & Halle 1968, Kenstowicz 1994)。

(2) e 消去ルール：語幹末分節音が X でない動詞語幹に，テ形接辞/te/が続く場合，テ形接辞/te/の/e/を消去せよ。

すなわち, ルール(2)の X に方言差が現れるのである。この方言差を解明するために, 有元(2007, 2020b)においては，九州全域の分布や理論的な考え方を示してきた。また，本稿で取り上げる宮崎県・大分県の方言については，特に有元(2013, 2019, 2020a)において詳細な記述がなされてきた。その結果，(2)のようなルールを仮定することによって，テ形音韻現象がいくつかの方言タイプに分かれることが判明している（cf. 有元 2020b)。

本稿では，方言ごとにテ形音韻現象を記述し，ルール(2)を仮定していくとともに，近隣方言との関連性を追究する。

2. 言語データについて

本稿で扱う言語データは，2023 年 9 月の現地調査によって収集したものである。日向市は，宮崎県の北東部に位置し，方言学上は豊日方言の中の日向方言に区画される（cf. 岩本 1983:271)。また，佐伯市は，大分県の南東部に位置し，方言学上は豊日方言の中の南部海岸方言区域に区画される（cf. 糸井 1983:242-244)。

動詞語幹の種類及び基底形(underlying form)は，次のように仮定する。

(3) 動詞語幹の種類・基底形

a. 子音語幹動詞：/kaw/＜買う＞, /tob/＜飛ぶ＞, /jom/＜読む＞, /kas/＜貸す＞, /kak/＜書く＞, /kog/＜漕ぐ＞, /tor/＜取る＞, /kat/＜勝つ＞, /sin/＜死ぬ＞など

b. 母音語幹動詞：　/mi/＜見る＞, /oki/＜起きる＞, /de/＜出る＞, /uke/＜受ける＞など

c. 不規則語幹動詞：　/i/～/it/＜行く＞, /ki/＜来る＞, /s/＜する＞

言語データは音声記号によって表記する。適格性については，各音声形の直前に以下のような記号を付けて示す。即ち，記号*は，その音声形が不適格であることを表す。記号??, ?は，その音声形が少し奇妙であるとインフォーマントが思っていることを示すが，前者の方が後者よりも不自然さの度合いが高い。記号&は，聞いたことはあるが使わないとインフォーマントが判断していることを示す。また，表中の記号-----は，未調査であることを表す。空欄箇所は，該当する形がない（回答がない）ことを表す。

本稿では語幹末分節音がαである動詞を「α語幹動詞」と呼ぶ。例えば，語幹末分節音が/k/である動詞，/kak/＜書く＞は「k 語幹動詞」と呼ぶ。「i1, e1 語幹動詞」は，語幹が 1 音節である i, e 語幹動詞を，「i2, e2 語幹動詞」は，語幹が 2 音節以上の i, e 語幹動詞をそれぞれ表す（インデ

ックス数字が付いていない場合は両方を含む)。

3. 分析

本節では，各方言におけるテ形音韻現象を記述する。

3.1. 宮崎県日向市方言におけるテ形音韻現象

本節では，日向市東郷（とうごう）町方言及び美々津（みみつ）町方言におけるテ形音韻現象を順に記述する。

3.1.1. 東郷町方言におけるテ形音韻現象

本節では，日向市東郷町方言を扱う。東郷町は，地理的には日向市の中西部（山側）に位置する。インフォーマントは 70 代・男性である。

動詞テ形の方言データを【表 1】に挙げる。また，【表 1】から，共通語の「テ」「デ」に相当する部分だけを抜き出したものが，【表 2】である。

【表 1, 2】から分かるように，東郷町方言では，共通語の「テ」「デ」に相当する部分に[te], [de]が現れる形（「te/de 形」と呼ぶ）と，いわゆる促音・撥音が現れる形（「Q/N 形」と呼ぶ）の 2 種類が現れている。しかし，te/de 形はすべての動詞の種類で現れている一方で，Q/N 形は大部分の種類の動詞で不適格となっている。適格なものは，[ukekkita]＜受けてきた＞，[ʃikkita]＜してきた＞だけである。一方，?[ikkita]＜行ってきた＞は不適格に近いようである。また，&?[sutekkure]＜捨ててくれ＞の内省は揺れている。

[ukekkita]＜受けてきた＞が，他の一段活用動詞と異なり適格である理由は，r 語幹化に関係があると考えられる。一段活用動詞の否定形・過去形を【表 3】に挙げる。

【表 3】を見ると，否定形で r 語幹化していない形が現れているのは，＜受ける＞だけである。＜見る＞＜起きる＞＜出る＞では，r 語幹化した形である[miraN]＜見ない＞，[okiraN]＜起きない＞，[deraN]＜出ない＞しか現れていない。従って，これらの語幹の基底形はそれぞれ/mir/, /okir/, /der/と仮定できる。一方，＜受ける＞は，r 語幹化した形である[ukeraN]も，r 語幹化していない形である[ukeN]も現れているため，語幹の基底形は/uker/, /uke/の両方を否定形では仮定できることになる。以上のことから，語幹末分節音の違いがテ形音韻現象の違いに反映されたと考えられる。すなわち，e 消去ルールを(4)のように仮定できる（不規則語幹動詞は除く）。

(4) e 消去ルール：語幹末分節音が X でない動詞語幹に，テ形接辞/te/が続く場合，テ形接辞/te/の/e/を消去せよ。

X＝/w, b, m, s, k, g, r, t, n/

【表 1】東郷町方言の動詞テ形

語幹		テ形		意味
形式	意味	te/de形	Q/N形	
kaw	買う	ko:tekita	*kokkita	買ってきた
tob	飛ぶ	tondekita *to:dekita	*tokkita *toŋkita	飛んできた
jom	読む	jondekita *jo:dekita	*jokkita *joŋkita	読んできた
kas	貸す	kaʃitekita *kja:tekita	*kakkita	貸してきた
okos	起こす	okoʃitekita	*okokkita *okekkita	起こしてきた
kak	書く	kaitekita *kja:tekita	*kakkita	書いてきた
ojog	泳ぐ	ojoidekita &oje:dekita	*ojokkita *ojoŋkita	泳いできた
tor	取る	tottekita	*tokkita	取ってきた
kat	勝つ	kattekita	*kakkita	勝ってきた
sin	死ぬ	ʃindekure	*ʃiŋkure	死んでくれ
mi	見る	mitekita *mittekita	*mikkita	見てきた
oki	起きる	okitekita	*okikkita	起きてきた
de	出る	detekita	*dekkita	出てきた
uke	受ける	uketekita	ukekkita	受けてきた
sute	捨てる	sutetekure	&?sutekkure	捨ててくれ
it	行く	ittekita itekita	?ikkita	行ってきた
ki	来る	kitekure	*kikkure	来てくれ
s	する	ʃitekita	ʃikkita *sekkita	してきた

【表 2】東郷町方言の動詞テ形における共通語の「テ」「デ」に相当する部分

語幹末分節音	日向市・東郷町	
	te/de形	Q/N形
w	te	
b	de	
m	de	
s	te	
k	te	
g	de	
r	te	
t	te	
n	de	
i_1	te	
i_2	te	
e_1	te	
e_2	te	Q
it	te	?Q
ki	te	
s/se	te	Q

【表 3】東郷町方言の一段活用動詞の否定形・過去形

動詞	日向市・東郷町	
	否定形	過去形
見る	*miɴ	mita
	miraɴ	*mitta
起きる	okiɴ	okita, oketa
	*okiraɴ	*okitta
出る	*deɴ	deta
	deraɴ	*detta
受ける	ukeɴ	uketa
	ukeraɴ	*uketta

(4)のようなe消去ルールの環境を持つ方言は，他にも多々あり，有元(2007, 2020b)では，「真性テ形現象方言」の中の「タイプTG方言」という方言タイプとしてまとめられている。

3.1.2. 美々津町方言におけるテ形音韻現象

本節では，日向市美々津町方言を扱う。美々津町は，地理的には日向市の南東部（海側）に位置する。インフォーマントは，80代・女性である。

動詞テ形の方言データを【表4】に挙げる。また，【表4】から，共通語の「テ」「デ」に相当する部分だけを抜き出したものが，【表5】である。

【表4, 5】から分かるように，すべての動詞において，共通語の「テ」「デ」に相当する部分にはte/de形しか現れていない。Q/N形など他の形は現れていない。このことから，美々津町方言には，(2)のようなe消去ルールはそもそも存在しないと仮定できる。

しかし，共通語の「テ」「デ」に相当する部分に，[te]が現れるのか，[de]が現れるのかについては，動詞の語幹末分節音の種類によって決まっている。この決定は，次のようなコアルールによる（cf. 有元2007:113）。

(5) 有声性順行同化ルール：語幹末分節音が有声音であるとき，形態素境界を挟んで直後の子音を有声音にせよ。

従って，美々津町方言は「非テ形現象方言（タイプN1方言）」である[2]。

参考までに，一段活用動詞の否定形・過去形を【表6】に挙げておく。【表6】を見ると，i1, i2, e1語幹動詞においてr語幹化が観察される。しかし，美々津町方言はe消去ルールを持っていないため，テ形音韻現象には無関係である。すなわち，一段活用動詞のテ形では，r語幹化していない語幹（例えば/mi/＜見る＞）が使われるのである。

3.2. 大分県佐伯市方言におけるテ形音韻現象

本節では，佐伯市蒲江（かまえ）方言及び宇目（うめ）方言におけるテ形音韻現象を順に記述する。

3.2.1. 蒲江方言におけるテ形音韻現象

本節では，佐伯市蒲江方言を扱う。蒲江地域は，地理的には佐伯市の南東に位置する。インフォーマントは，60代・男性である。

動詞テ形の方言データを【表7】に挙げる。また，【表7】から，共通語の「テ」「デ」に相当する部分だけを抜き出したものが，【表8】である。

【表7, 8】から分かるように，すべての動詞において，共通語の「テ」「デ」に相当する部分にはte/de形しか現れていない。これは, 3.1.2で述べた美々津町方言と同じである。このことから，

[2] 有元(2007:106-113)では，「タイプN1方言」を「タイプNA方言」（旧名称）と呼んでいる。

【表 4】美々津町方言の動詞テ形

語幹		テ形		意味
形式	意味	te/de形	Q/N形	
kaw	買う	ko:tekita	*kokkita	買ってきた
tob	飛ぶ	tondekita	*toŋkita *tokkita	飛んできた
asob	遊ぶ	asondekita	*asoŋkita *asuŋkita	遊んできた
jom	読む	jondekita	*joŋkita *jokkita	読んできた
kas	貸す	kaʃitekita	*kakkita	貸してきた
kak	書く	kaitekita	*kakkita	書いてきた
ojog	泳ぐ	ojoidekita	*ojoŋkita	泳いできた
tor	取る	tottekita	*tokkita	取ってきた
kat	勝つ	kattekita	*kakkita	勝ってきた
sin	死ぬ	ʃindekureɴ	*ʃiŋkureɴ	死んでくれん
mi	見る	mitekita *mittekita	*mikkita	見てきた
oki	起きる	okitekita okittekita	*okikkita	起きてきた
de	出る	detekita	*dekkita	出てきた
uke	受ける	uketekita	*ukekkita	受けてきた
sute	捨てる	sutetekita	*sutekkita	捨ててきた
i〜it	行く	ittekita *itekita *itatekita	*ikkita	行ってきた
ki	来る	kitekure	*kikkure	来てくれ
s	する	ʃitekita	*ʃikkita *sekkita	してきた

【表 5】美々津町方言の動詞テ形における共通語の「テ」「デ」に相当する部分

語幹末分節音	美々津
w	te
b	de
m	de
s	te
k	te
g	de
r	te
t	te
n	de
i_1	te
i_2	te
e_1	te
e_2	te
i〜it	te
ki	te
s/se	te

【表 6】美々津町方言の一段活用動詞の否定形・過去形

	美々津	
	否定形	過去形
見る	*miɴ	mita
	miraɴ	*mitta
起きる	okiɴ	okita
	okiraɴ	*okitta
出る	*deɴ	deta
	deraɴ	*detta
受ける	ukeɴ	uketa
	*ukeraɴ	*uketta
捨てる	suteɴ	suteta
	*suteraɴ	-----

【表 7】蒲江方言の動詞テ形

語幹		テ形		意味
形式	意味	te/de形	Q/N形	
kaw	買う	ko:tekita	*kokkita	買ってきた
tob	飛ぶ	tsu:dekita	*toŋkita *tokkita *tsuŋkita *tsukkita	飛んできた
jom	読む	ju:dekita	*juŋkita *jukkita	読んできた
kas	貸す	kaʃitekita kaitekita	*kakkita	貸してきた
kak	書く	kaitekita *katekita *ka:tekita *kja:tekita	*kakkita	書いてきた
ojog	泳ぐ	oi:dekita	*oiŋkita	泳いできた
tor	取る	tottekita	*tokkita	取ってきた
kat	勝つ	kattekita	*kakkita	勝ってきた
sin	死ぬ	ʃindekure	*ʃiŋkure	死んでくれ
mi	見る	mitekita *mittekita	*mikkita	見てきた
oki	起きる	okitekita oketekita okittekita	*okikkita	起きてきた
de	出る	detekita *dettekita	*dekkita	出てきた
uke	受ける	uketekita *ukettekita	*ukekkita	受けてきた
sute	捨てる	ɸuitetekita	*ɸuitekkita	捨ててきた
i〜it	行く	ittekita itekita *itatekita	*ikkita	行ってきた
ki	来る	kitekure	*kikkure	来てくれ
s	する	ʃitekita	*ʃikkita *sekkita	してきた

【表 8】蒲江方言の動詞テ形における共通語の「テ」「デ」に相当する部分

語幹末分節音	蒲江
w	te
b	de
m	de
s	te
k	te
g	de
r	te
t	te
n	de
i_1	te
i_2	te
e_1	te
e_2	te
i〜it	te
ki	te
s/se	te

【表 9】蒲江方言の一段活用動詞の否定形・過去形

	蒲江	
	否定形	過去形
見る	*miɴ	mita
	miraɴ	*mitta
起きる	okiɴ	oketa
	okiraɴ	*oketta
出る	deɴ	deta
	deraɴ	*detta
受ける	ukeɴ	uketa
	ukeraɴ	*uketta
捨てる	suteɴ ɸuiteɴ	-----
	ɸuiteraɴ	-----

蒲江方言は「非テ形現象方言（タイプ N1 方言)」である。従って，(4)のような e 消去ルールはそもそも存在しないと仮定できる。代わりに，コアルールとして(5)を持っている。

参考までに，一段活用動詞の否定形・過去形を【表 9】に挙げておく。ここから，すべての一段活用動詞で r 語幹化が起こっていることが観察される。しかし，蒲江方言は e 消去ルールを持っていないため，テ形音韻現象には影響を及ぼさない。

3.2.2. 宇目方言におけるテ形音韻現象

本節では，佐伯市宇目方言を扱う。宇目地域は，地理的には佐伯市の西南部に位置する。インフォーマントは，70 代・男性である。

動詞テ形の方言データを【表 10】に挙げる。また，【表 10】から，共通語の「テ」「デ」に相当する部分だけを抜き出したものが，【表 11】である。

【表 10, 11】から分かるように，共通語の「テ」「デ」に相当する部分には，te/de 形または ʧi/ʤi 形が現れている。しかも，e2 語幹動詞及び不規則動詞では，te/de 形の回答はなく，ʧi/ʤi 形のみの回答が得られた。他の動詞であっても，同様に第一回答は ʧi/ʤi 形であった。

以上より，宇目方言は，美々津町方言や蒲江方言と同様，コアルール(5)を持っている「非テ形現象方言」であることが分かる。ただし，それらの方言とは異なり，「タイプ N2 方言」である。

参考までに，一段活用動詞の否定形・過去形を【表 12】に挙げておく。ここから，i1, e1 語幹動詞でのみ r 語幹化が起こっていることが分かる。しかし，宇目方言は e 消去ルールを持っていないため，テ形音韻現象には影響を及ぼさない。

4. 地理的分布

第 3 節の考察を踏まえて，各方言のテ形音韻現象における方言タイプをまとめると，以下の通りである。

(6) a. 東郷町方言：　真性テ形現象方言（タイプ TG 方言）
　　b. 美々津町方言：　非テ形現象方言（タイプ N1 方言）
　　c. 蒲江方言：　非テ形現象方言（タイプ N1 方言）
　　d. 宇目方言：　非テ形現象方言（タイプ N2 方言）

地理的には，タイプ TG 方言は，近隣でも熊本県山都町方言（正確には「タイプ TG=PA 方言」という共生タイプ，cf. 有元 2013)，熊本県人吉市田野町方言（cf. 有元 2011）などに見られる。また，熊本県阿蘇郡産山村方言のタイプ PG/N1 方言でも，擬似テ形現象方言が見られる（cf. 有元 2013)。方言タイプ PG では，e 消去ルールの適用環境 X が真性テ形現象方言（タイプ TG 方言）と同じであるである一方，共通語の「テ」「デ」に相当する部分には ʧi/ʤi 形が現れる。

非テ形現象方言（タイプ N1 方言）は，宮崎県児湯郡西米良村や東臼杵郡椎葉村で見られる（cf. 有元 2020a）ほか，前述の産山村方言でも方言タイプ PG/N1 という非テ形現象方言が見られる。

【表 10】宇目方言の動詞テ形

語幹		テ形		意味
形式	意味	te/de形	ʧi/ʤi形	
kaw	買う	ko:tekita	ko:ʧikita	買ってきた
tob	飛ぶ	tondekita ??tsu:dekita	tonʤikita	飛んできた
jom	読む	jondekita *jo:dekita	jonʤikita	読んできた
kas	貸す	kaʃitekita *kaitekita	kaʃitʃikita	貸してきた
kak	書く	kaitekita	kaitʃikita	書いてきた
ojog	泳ぐ	ojoidekta *oi:dekita	ojoiʤikita	泳いできた
tor	取る	tottekita	tottʃikita	取ってきた
kat	勝つ	kattekita	kattʃikita	勝ってきた
sin	死ぬ	ʃindekure	ʃinʤikure	死んでくれ
mi	見る	mitekita *mittekita	mitʃikita	見てきた
oki	起きる	okitekita oketekita	oketʃikita	起きてきた
de	出る		detʃikita	出てきた
uke	受ける		uketʃikita	受けてきた
sute	捨てる		sutetʃikita ɸuitetʃikita	捨ててきた
i〜it	行く		ittʃikita *itʃikita	行ってきた
ki	来る		kitʃikureŋkano	来てくれ
s	する		ʃitʃikita	してきた

【表 11】宇目方言の動詞テ形における共通語の「テ」「デ」に相当する部分

語幹末分節音	蒲江
w	te/ʧi
b	de/ʤi
m	de/ʤi
s	te/ʧi
k	te/ʧi
g	de/ʤi
r	te/ʧi
t	te/ʧi
n	de/ʤi
i_1	te/ʧi
i_2	te/ʧi
e_1	ʧi
e_2	ʧi
i〜it	ʧi
ki	ʧi
s/se	ʧi

【表 12】宇目方言の一段活用動詞の否定形・過去形

	蒲江	
	否定形	過去形
見る	*miɴ	mita
	miraɴ	*mitta
起きる	okeɴ	oketa
	*okeraɴ	*oketta
出る	*deɴ	deta
	deraɴ	*detta
受ける	ukeɴ	uketa
	*ukeraɴ	*uketta
捨てる	-----	ɸuiteta
	-----	*ɸuitetta

非テ形現象方言（タイプ N2 方言）は，大分県日田市上津江町の「タイプ PD'''/N2 方言」（cf. 有元 2013），宮崎県西臼杵郡高千穂町の「タイプ N2/PD'''方言」（cf. 有元 2020a）ほか，同じ日向方言地域では日南市方言や串間市方言でも見られる（cf. 有元 2019）。

以上の地理的分布を考慮すると，九州中央を南北に縦断する山地地域方言では，擬似テ形現象方言と非テ形現象方言が共起する一方で，それよりも東側ではその共起が崩れ，非テ形現象方言が大勢を占めていることが分かる。これは，有元(2007:218)の「非テ形現象化の指向性 α」を反映していることに他ならないだろう。

5. おわりに

本稿では，宮崎県北部・大分県南部の 4 方言におけるテ形音韻現象を記述し，そこに潜むルールを仮定した。さらに，テ形音韻現象の方言タイプの地理的分布を観察することによって，近隣の方言との比較を行った。その結果，九州東部方言は，共生タイプの存在や話者による違いなど，複雑な様相を呈していることが判明した。しかし，理論的に従来の仮説をさらに支持する根拠を得られたことは，本稿における大きな意義であろう。

今回は，紙幅の関係で，有元(2020b:25)にある「方言タイプの分布地図」を更新することはできなかったが，今後は，さらに緻密な調査を通して，テ形音韻現象を解明していく。

【参考文献】

有元光彦(2007)『九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究』ひつじ書房

有元光彦(2011)「熊本県本土南部・鹿児島県本土西北部方言の動詞テ形における形態音韻現象」『山口大学教育学部研究論叢』第 60 巻第 1 部，pp.25-38.

有元光彦(2013)「タイプ PD'''，PG 方言の発見―熊本県北東部・大分県中西部方言の動詞テ形における形態音韻現象―」『山口大学教育学部研究論叢』第 62 巻・第 1 部，pp.37-55.

有元光彦(2019)「テ形音韻現象の崩壊に関する議論―宮崎県南部方言を対象として―」『山口大学教育学部研究論叢』第 68 巻，pp.335-343.

有元光彦(2020a)「非テ形現象・擬似テ形現象の崩壊に関する予備的考察―宮崎県北西部方言を対象として―」『山口大学教育学部研究論叢』第 69 巻，pp.261-270.

有元光彦(2020b)「九州方言におけるテ形音韻現象の崩壊について」『言語研究』第 158 号，日本言語学会編，pp.1-28.

Chomsky, N. & M. Halle (1968) *The Sound Pattern of English*, Harper & Row.

糸井寛一(1983)「大分県の方言」『講座方言学 9 九州地方の方言』飯豊毅一ほか編　国書刊行会 pp.237-266.

岩本実(1983)「宮崎県の方言」『講座方言学 9 九州地方の方言』飯豊毅一ほか編　国書刊行会 pp.267-293.

Kenstowicz, M. (1994) *Phonology in Generative Grammar*, Blackwell Publishers.